

キリコ祭り（秋祭り）の文化の継続・継承

指導教員 石川県立大学 准教授 長野峻介
金沢大学 博士研究員 小林秀輝

参加学生 石川県立大学
澤田 真優 小林 優椰 松本 爽楽 野田 龍斗 黒田 雄斗
城ヶ端 扶 竹内 隆晟 高橋 柊生

珠洲市栗津地区のみなさんに心より感謝申し上げます

がんばろう能登！ がんばろう石川！

キリコ祭り(秋祭り)の文化の継続・継承

石川県立大学

澤田 真優 ・ 小林 優椰 ・ 松本 爽楽 ・ 野田 龍斗 ・ 黒田 雄斗 ・ 城ヶ端 扶 ・ 竹内 隆晟 ・ 高橋 柊生

指導教員

石川県立大学 長野峻介 金沢大学 小林秀輝

背景

- キリコ祭りは、能登半島の約200地区で開催され、生活に祭りが溶け込み、それぞれ地区独自の形態で行わる多様性などが、高い文化的な価値として、**日本遺産**にも認められている
- これまでの歴史の中で祭りを変化させながら、それぞれの**地域の独自性**をつくりあげてきた
- しかし、過疎化や高齢化によって祭りの維持が年々困難になってきており、“縮小”や“廃止”も選択肢として、**新たな祭りの変化**を迫られている
- 粟津地区では、これまで大学生の祭りへの参加を受け入れるなど先進的な取り組みを行い、地区の若手**粟津自彊団**を中心に、祭りの“**継続**”を選び、その方法を模索している
- ただし、担ぎ手として学生が祭り当日に参加するのみで、学生と地域との**関係が限定的**なものである、など課題がある

キリコ祭り

- 能登半島一円で、7～10月に開催
- 「キリコ」と呼ばれる巨大な灯籠(御神灯)を担いで練りまわる。最大のもので 約2t、高さ15m
- 能登半島全体 約200地区で開催
- あばれ祭り(能登町)、輪島大祭(輪島市)などが有名であり、地区ごとに意匠や趣向に特徴がある
- 日本遺産に認定:「灯(あか)り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」



珠洲市三崎町 粟津地区

- 能登半島 最先端の静かな農村集落
- 約60世帯
- トキの放鳥モデル地区のひとつ
- 粟津の片姫神社の秋季祭礼としてキリコ祭りを毎年9月12日に開催
- 過疎化・高齢化の最先端



粟津自彊団

- 古くから地区に存在する組織
- 団長をはじめ10数人の組織
- 高校卒業後～40代まで地域住民
- 昔は選ばれた人のみ所属、地域の後継者を育成する場
- 祭りを中心とした地区行事の運営を担う



目的

- キリコ祭りの文化継承のため、大学の持つ人的・物的資源を活用して
 - 外部人材と継続的・発展的に連携する仕組み作り
 - 祭りのアーカイブ化、ノウハウの蓄積・継承

オンラインによる勉強会

- 珠洲と石川県立大学とをオンラインツールで結び、定期的に実施
- 粟津地区やキリコ祭りについてのレクチャー、これまで粟津地区の祭りに参加した経験のある学生による経験談、現地活動の準備等を行った
- 実施日: 6/13、6/27、7/11、7/25、8/8、8/29



粟津片姫神社秋季祭礼に参列

- 片姫神社秋季祭礼に参列した。例年、神輿とキリコが地区内の家々を巡る神輿渡御・キリコ巡行が執り行われるが、能登半島地震の影響で中止となった
- 片姫神社での神事のみとなり、学生は地域住民の方々とともに参列し神をお供えし、祭礼の終了後には直会をいただいた
- 実施日: 9/12



被災した水田で稲刈り支援活動

- 9月に発生したは奥能登豪雨により、粟津地区では稲刈り直前の水田が冠水する被害が生じた。
- 地震の被害で排水性が低下しぬかんだ水田では機械による稲刈りができない状況であったため、人力での稲刈り作業の支援活動を行った
- 実施日: 9/26、9/27



お囃子の稽古

- 大学祭でのお囃子のステージ披露にむけて、キリコ祭りの太鼓と篠笛のお囃子の稽古を重ねた
- これまでに撮影したお囃子や祭りの動画資料を用いて稽古した。また、篠笛の演奏には学生が制作した塩ビパイプ製の篠笛を用いた
- 実施日: 10/7、10/10、10/11、10/15、10/17、10/18、10/22、10/24、10/25



大学祭でお囃子のステージ披露 および粟津産新米の販売

- 石川県立大学の大学祭において、祭りのお囃子をステージ披露した
- 粟津自彊団のメンバーとともに太鼓を叩き篠笛を奏で、学生は稽古の成果により堂々とした演奏ができ、自彊団はさらにリズムカルで迫力ある演奏を披露、ステージは好評を博した
- また、粟津のキリコ祭りを撮影した写真のパネル展示とともに、粟津産の新米の販売を行った
- 実施日: 10/26、10/27



お囃子の稽古テキストの作成

- 大学祭でのステージやそれまでの稽古をふりかえり、お囃子各曲の構成や稽古手順、学生が気づいた稽古のポイントなどをテキストとしてまとめた。
- 実施日: 11/8、11/22



令和6年1月1日 能登半島地震

- 能登半島地震により粟津地区は家屋の倒壊など極めて甚大な被害を受けており、今後の祭りの開催を見通すことが難しくなった
- この先、長期に及び避難生活や転出者の増加などが予想され、地域コミュニティが危機に瀕している
- 奇跡的にキリコ本体は損壊を免れたが、祭りは地域コミュニティの繋がりを強めるソーシャル・キャピタルとして重要なものであり、地域コミュニティの復興のためには祭り文化や精神を継承することは欠くことはできない



まとめ

- 能登半島地震により甚大な被害が出た粟津地区では、今年度の祭りで神輿渡御、キリコ巡行が中止された。祭り文化の継承が危機に瀕する中で、祭り本番とは異なる場ではあるものの、お囃子を演奏・披露し、粟津地区や祭り文化を継承・発信する機会を持つことができた。
- 本年度の活動および、これまで3年間の活動成果によって蓄積しとりまとめたアーカイブ資料やノウハウ、テキストを活用することで、今後も学生が祭り本番や祭り文化を発信する機会に関わることができ、地域の方々の祭り文化の継承を支援することができるようになった。
- 能登半島地震や豪雨災害の被害は甚大であり、今後の粟津地区の復興には長い時間を要することが考えられる。祭りは地域コミュニティの繋がりを強めるソーシャル・キャピタルとして重要なものであり、地域コミュニティの復興のためには祭り文化や精神を継承することは欠くことはできない。粟津地区や地域コミュニティの復興に寄与するために、今後も地域と方々と学生が連携した支援活動を継続していきたい。

地域と外部人材との連携のために

- 本活動は**粟津自彊団の尽力**によるところが大きい
- 地域と外部人材との継続的な連携には、地域側に外部人材の受け入れに**理解**があること、そして実際に受け入れの経験とノウハウを蓄積していくことが重要
- 粟津地区自彊団の濱山隆浩さんからのコメント
 - 地震の影響で神輿渡御がなく練習の成果を地区では披露できなかったが、県立大学の大学祭で自彊団の団員と学生が太鼓と笛の演奏で共演できて良かった。今年または来年以降で祭りがある際は珠洲に来て参加してもらいたい。また成果を使って、いろんな人に珠洲の粟津で行われている祭りに関する事を伝えてもらいたいです。



1. 活動の要約

本活動では、珠洲市三崎町栗津地区のキリコ祭り（秋祭り）の文化の継続・継承をテーマとし、外部人材と継続的に連携する仕組み作りと祭りのアーカイブ化を目的としている。今年度は活動3年目であり、栗津地区の方々の意向を踏まえながら、祭り文化の継承と地域コミュニティの復興に寄与するため、次のような活動を実施した。オンラインツールを活用して学生が地域住民と交流して地域や祭りについて学ぶ機会の創出、片姫神社秋季祭礼への参列、9月に発生した奥能登豪雨で被災した水田での稲刈り支援活動、これまでに撮影したお囃子や祭りの動画資料を用いたお囃子の稽古、大学祭での学生と地域の方々によるお囃子のステージ披露および栗津産新米の販売、お囃子の稽古テキストの作成などが含まれている。能登半島地震の影響で今年度の祭礼では神輿・キリコの巡行は行われなかったが、学生が祭り文化を学び習得し、地域の方々と一緒に披露することができ、祭り文化を絶やさず継承するためのアーカイブ資料、ノウハウ、テキストをとりまとめることができた。

2. 活動の目的

能登各地に残るキリコ祭りは日本遺産にも認定されており高い文化的価値を認められているが、将来への継承が課題となっている。本活動が対象とする珠洲市三崎町栗津地区のキリコ祭りも、過疎化や高齢化によって祭りの維持が年々困難になってきている。栗津地区では、地域外から大学生の祭りへの参加を受け入れるなど先進的な取り組みを行い、地区の若手を中心に祭りの継続方法を模索しているが、学生と地域との関係が祭り当日を中心とした限定的なものである等、様々な課題がある。

そこで、祭りの継承のため、外部人材と継続的に連携する仕組み作りと祭りのアーカイブ化を、大学の持つ人的・物的資源を活用してサポートすることを本活動の目的とする。

3. 活動の内容

活動3年目である本年度の主な活動は以下のとおりである。

・オンラインによる勉強会

栗津地区と石川県立大学とをオンラインで結び、勉強会を定期的実施した。勉強会では、栗津地区やキリコ祭りの概要について栗津地区の担当者からレクチャーを受けたり、これまで栗津地区の祭りに参加したことのある学生に経験談を話してもらったり、現地活動の準備等を行った。

実施日：6/13、6/27、7/11、7/25、8/8、8/29

・栗津片姫神社秋季祭礼に参列（写真1）

毎年9月12日に開催される栗津地区の片姫神社の秋季祭礼に参列した。例年、神輿とキリコが地区内の家々を巡る神輿渡御・キリコ巡行が執り行われるが、能登半島地震の影響で中止となった。そのため、片姫神社での神事のみとなり、学生は地域住民の方々とともに参列し榊をお供えし、祭礼の終了後には直会をいただいた。

実施日：9/12

・9月に発生した奥能登豪雨で被災した水田での稲刈り支援活動（写真2）

令和6年1月の能登半島地震につづき9月には奥能登豪雨が発生し、栗津地区では稲刈り直前の水田が冠水する被害が生じた。地震の被害で排水性が低下しぬかるんだ水田では機械による稲刈りができない状況であったため、人力での稲刈り作業の支援活動を行った。

実施日：9/26、9/27

- ・お囃子の稽古

大学祭でのお囃子のステージ披露にむけて、キリコ祭りの太鼓と篠笛のお囃子の稽古を重ねた。これまでに撮影したお囃子や祭りの動画資料を用いて稽古した。また、篠笛の演奏には学生が制作した塩ビパイプ製の篠笛を用いた。

実施日：10/7、10/10、10/11、10/15、10/17、10/18、10/22、10/24、10/25

- ・大学祭でお囃子のステージ披露および粟津産新米の販売（写真3、4）

石川県立大学の大学祭において、祭りのお囃子をステージ披露した。粟津自彊団のメンバーとともに太鼓を叩き篠笛を奏で、学生は稽古の成果により堂々とした演奏ができ、自彊団はさらにリズムカルで迫力ある演奏を披露しステージは好評を博した。また、粟津のキリコ祭りを撮影した写真のパネル展示とともに、粟津産の新米の販売を行った。

実施日：10/26、10/27

- ・お囃子の稽古テキストの作成

大学祭でのステージやそれまでの稽古をふりかえり、お囃子各曲の構成や稽古手順、学生が気づいた稽古のポイントなどをテキストとしてまとめた。

実施日：11/8、11/22



写真1 祭礼への参列



写真2 豪雨で被災した稲刈り作業支援



写真3 大学祭でのお囃子ステージ



写真4 粟津産新米

4. 活動の成果

能登半島地震により甚大な被害が出た粟津地区では、今年度の祭りで神輿渡御、キリコ巡行が中止された。祭り文化の継承が危機に瀕する中で、祭り本番とは異なる場ではあるものの、お囃子を演奏・披露し、粟津地区や祭り文化を発信する機会を持つことができた。今年度の活動では、このような活動を地域外の学生たちが地域住民とともに実現できたことに大きな意義があると考えられる。ただし、従来の目標としていたアーカイブ資料のさらなる収集は、能登半島地震の影響は大きく十分に達成することができなかった。

また、学生がお囃子を稽古する際には、これまでに収集したお囃子や祭りの動画資料を活用した。粟津地区とよく似たお囃子を演奏する隣地区の楽譜資料も参考にしたが、楽器演奏の経験がない学生がほとんどであるため、楽譜資料を見て演奏することは難しかった。稽古では動画資料を繰り返し見て覚え、動画と合わせて演奏することが最も有効な方法であった。また、西洋音楽とは異なる独自の間や拍子があるため、五線譜の楽譜では読み取れないものがあると感じた。さらに、お囃子各曲の構成や稽古手順、学生が気づいた稽古のポイントなどをテキストとしてまとめた。

本年度の活動および、これまで3年間の活動成果によって蓄積しとりまとめたアーカイブ資料やノウハウ、テキストを活用することで、今後も学生が祭り本番や祭り文化を発信する機会に関わることで、地域の方々の祭り文化の継承を支援することができるようになった。

5. 今後の活動について

能登半島地震や豪雨災害の被害は甚大であり、今後の粟津地区の復興には長い時間を要することが考えられる。祭りは地域コミュニティの繋がりを強めるソーシャル・キャピタルとして重要なものであり、地域コミュニティの復興のためには祭り文化や精神を継承することは欠くことはできない。粟津地区や地域コミュニティの復興に寄与するために、今後も地域と方々と学生が連携した支援活動を継続していきたい。

6. 活動に対する地域からの評価

粟津地区自彊団の濱山隆浩氏から、以下のような評価をいただいた。

「地震の影響で神輿渡御がなく練習の成果を地区では披露できなかったが、県立大学の大学祭で自彊団の団員と学生が太鼓と笛の演奏で共演できて良かった。今年または来年以降で祭りがある際は珠洲に来て参加してもらいたい。また成果を使って、いろんな人に珠洲の粟津で行われている祭りに関する事を伝えてもらいたいです。」